いきいき行田人（ぎょうだじん）

ひいおばあちゃんを思う気持ちで「しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞」を受賞

大山 宗一郎 さん（下忍・11歳）

全国の小学生を対象に短歌づくりを通じて国語力を培うことを目的として、一般社団法人倫理研究所が主催した第12回しきなみ子供短歌コンクール。6万4千133の応募の中から、わずか3人（低・中・高学年の部でそれぞれ1人ずつ）という「しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞」を高学年の部で受賞したのが、大山宗一郎さんです。

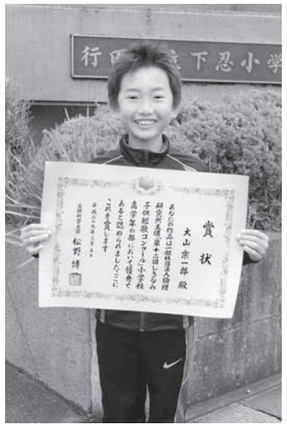
幼い頃から家族の会話の中で両親と言葉遊びをするなど、短い文を作ることに興味があったという大山さん。昨年の夏休みの課題で次の歌を詠み、同コンクールに応募しました。

『どちらさまぼくにたずねるおばあちゃん
こんどはぼくがささえてあげる』

90歳を過ぎている曽祖母が昨年6月に施設に入所しました。8月に会いに行った際に、病気のせいで記憶が断片的になっており、悲しい思いをしたという大山さん。「僕が小さい頃、ひいおばあちゃんから昔の話を聞くことが好きでした。折り紙やお手玉を教えてもらったり、手を引かれ散歩に出掛けたりもしました。今度は僕が手を引いてあげて散歩に出掛けたい。僕が大好きなひいおばあちゃんを支えて、たくさんの思い出を作っていこうと思います。そんな気持ちを短歌にしてみました」と歌に込めた思いを口にします。今回の受賞を曽祖母に伝えたところ、うれしそうに笑っていたそうです。

3月5日に東京都港区のニッショーホールで行われた表彰式で「しきなみ子供短歌賞・文部科学大臣賞」が発表され、その場で受賞を知った大山さんは「すごくびっくりしました。お父さんとお母さんからたくさん褒めてもらいました」とにっこり。ステージ上では、大山さんの作品が高らかに読み上げられ、会場に集まった大勢の人たちに祝福される中、緊張しながらも堂々と賞状を受け取りました。

大山さんは「小学3年生から始めた野球を続けたいけれど、将来は誰かの役に立つ仕事に就けたらいいなと思います。また、ボランティア活動に取り組んでみたいです」とはにかみながら目標について話してくれました。これからもさまざまなことにチャレンジし、自らの可能性を広げていくことでしょう。



私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

春光に枯木のごとき身を晒す　棚田町　財津ミチヱ
ものの芽や鉢に尖れるうすみどり　矢場　高田みつ子
桜餅ついに米寿となりにけり　城南　橋本千枝子
来し方をぼんやり手繰る春の昼　荒木　藤田　栄之
句碑並ぶ参道長き彼岸寺　桜町　長谷川さく
春愁や裾の短かき銅人形　富士見町　鈴木スイ子
八十路とて少し気になる猫の恋　城西　鈴木　正夫
学童のエール交換卒業式　持田　小倉　繁三
春愁や詫びたき人にもう会えず　荒木　森田　静
寄せ書きに本音をポロリ卒業子　持田　二瓶　弘子
海しづかはや六度目の弥生かな　須加　長谷　恒
年輪を刻む掌をもて芋植える　荒木　髙澤よね子
春風に髪なびかせて少女来る　持田　荻原　義久
畦道に芹摘む人の見えかくれ　富士見町　森　節子
受験子は瞳を輝やかせ夢語る　持田　伊藤　洋子
いきいきと地に咲くごとし落椿　佐間　須永　節子
春場所の稀勢の辛抱神がかり　持田　島田　悦子
よもすがら咆哮やまぬ春一番　下中条　梶原　銃司
諍いてうつろに雪の富士眺む　佐間　栗田　恵子
天地に心ひらきて麦を踏む　矢場　鈴木かづの

（三沢　一水　監修）

はじめまして

★★★ 平成28年 5月生まれ のおともだち ★★★

平成28年7月生まれのお子さんを募集します

○5月1日(月)～31日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、6月2日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

遊馬　実慶（みのり）ちゃん（西新町）
平成28年5月9日生まれ
父・智昭さん　母・千絵さん
「明るく元気に優しくね！」

島田　七海（ななみ）ちゃん（下忍）
平成28年5月18日生まれ
父・健作さん　母・絵理香さん
「我が家の暴れん坊アイドルです♡」

蛭間　煌斗（あきと）ちゃん（荒木）
平成28年5月11日生まれ
父・康文さん　母・聡美さん
「これからも元気に育ってね♡」

野見山　心美（ここみ）ちゃん（佐間）
平成28年5月27日生まれ
父・政彦さん　母・恵美子さん
「元気で優しい子に育ってね♡」

黒澤　優徳（まさのり）ちゃん（谷郷）
平成28年5月16日生まれ
父・正志さん　母・恵さん
「元気にすくすく育ってね♡」

佐藤　航介（こうすけ）ちゃん（富士見町）
平成28年5月28日生まれ
父・裕斗さん　母・奈央さん
「すくすく成長してね」

ぎょうだの会社をクローズアップ!!

有限会社明治堂印舗

確かな技で唯一無二の手彫り印を

大正10年に創業以来、実印や認印、会社印、ゴム印など幅広い印を取り揃えているのが有限会社明治堂印舗です。

最近ではホームセンターなどでも簡単に印が買えますが、機械で大量生産された印は、全て同じ書体のため印鑑登録には使用できず、金融機関の登録にもあまり向いていません。そのため同社では手彫りにこだわり、〝真面目にまともなはんこを作る〟ことを信念に世界に一つしか無い印を提供しています。代表取締役の新井理喜男さんは「使用する場面に合わせて、印材から入れる文字、書体まで相談に乗り、アドバイスしています。質の良い印材と長年培ってきた彫りの技術で何十年も使用できる品質の印をお渡しできます」と話してくれました。印章彫刻の一級技能士である新井さんが自らの手で字の配置から下書きを行い、30本にも及ぶ太さの異なる印刀を使い分け丁寧に彫り上げる印は信頼が厚く、個人だけでなく官公庁や学校、企業からも注文があるそうです。他にも、孫へ贈る印を作りたいという依頼や代々使ってきた印を彫り直してほしいという依頼などさまざまな要望に対応しています。

また、同社で長く続けているのが印章供養のサービス。不要になった印を預かり、10月1日の「印章の日」に京都の下鴨神社で供養しています。長年使ってきた印へ感謝の気持ちを示せるとともにセキュリティの面でも安心だそうです。

さらに、はんこ専門店では取り扱いが少なくなってしまった位牌の文字彫刻も手掛けています。専門の蒔絵師に依頼し、美しい金色の文字に仕上げているとのことです。

「これからも真面目なはんこ作りでお客さんの信頼に応えていきたい」と改めて決意を語る新井さんは、毎日の業務に加え、全国技能グランプリに出場したり、書体を勉強したりと今でも技術を向上させるための鍛錬を続けています。これからも同社はその確かな技で、唯一無二の印を作り続けてくれることでしょう。

会社プロフィール

代表取締役　新井 理喜男
【事業内容】印鑑小売、印鑑彫刻販売
【住所】行田13―9

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。